

開催地名：東京都国分寺市	
開催日時	令和 5 年 2 月 15 日（水） 14：00 ～ 15：30
開催場所	cocobunji プラザ
語り部	山田 修生 （宮城県仙台市）
参加者	市民防災推進委員及び市民 69 名
開催経緯	<p>当市では、平成 25 年度に災害対策基本法で地区防災計画が位置づけられる 37 年以上前から、市民が中心となり、地区防災計画を策定し、現在は 15 の防災まちづくり推進地区が策定済である。また、策定より年数が経過し、現在の国分寺市地域防災計画に沿っていない計画もあるため順次見直しを図っている。</p> <p>当市は過去に大きな災害に見舞われたことが無く、実体験に基づいた計画でないことから、本当に計画とおりになるのか不安な一面もある。日常の自助や共助への備えや避難所での運営や自主防災組織による在宅避難者への支援などの実体験をお聞きし、さらなる対策を講じたい。</p>
内容	<p>（１）はじめに</p> <p>45 年前ほど前の昭和 53 年 6 月に、死者 28 人、負傷者 11,000 人、家屋損壊 13 万戸を記録した宮城県沖地震が発生した。この地震がターニングポイントとなって、宮城県は地震防災に本格的に取り組み始めたと言える。</p> <p>2011 年 3 月 11 日 14 時 46 分に、水深 6,500 メートルにある縦 500 キロ、横 200 キロの広さの海底プレートが崩れたことによって発生した大地震は、マグニチュード 9.0 を記録した。西暦 869 年にこの大地震に匹敵する規模の貞観地震が東北地方で発生しているため、1,000 年に 1 度の規模の災害と言われている。大地震の前には震度 2 ～ 4 程度の地震が何回かあるのが一般的である。その際、横揺れについては心配ないが、東日本大震災では地下から「ゴォー」と音がして縦揺れ、横揺れ、斜め揺れと、すごい揺れが継続した。その後大きな津波が来ると思い、住んでいるマンションの居住者を避難所へ誘導した。東日本大震災発生時、自分がどう動けばいいのかわからず、震災前にそれなりの準備や訓練をしていて知識はあったが、まったく活用できなかったと言える。</p> <p>現在各地で行われている避難訓練は、通常は土・日・祝日を中心に行われている。しかし東日本大震災は、勤労者、特に男性がほとんどいない平日の昼間という時間帯に発生した。高齢者や主婦しかいない状況下での避難訓練も想定していただくとともに、自主防災会や役員への女性の登用についても、今後は推進していく必要がある。</p> <p>地震が収まった後、私は避難所の運営に携わった。すでに訓練等で担当が決まっているところも多いだろうが、名簿班、総務班、情報広報班、食料物資班、救護衛生班などに分かれて活動することになる。一番重要になるのはトイレの問題である。避難所は人数が多く、トイレが必ず詰まる。組み立て式のトイレもすぐいっぱいになる。これは今後の重要課題として意識しておいてほしい。</p> <p>（２）東日本大震災から学んだこと</p>

東日本大震災は、災害対策を決して怠っていたわけではないが、これまでの取り組みが無効だと感じてしまう程の規模であった。いつどこで起こるか分からない自然災害を予測することは難しい。従って、自然災害と共生していくことが、被害を最小限にする手立てとなる。自分の居住する地域で起こった土砂崩れや河川の氾濫、水害、地震についての情報は、必ず把握していただきたい。

そして、自宅避難者への対応についても、特に注意をお願いしたい。小学校、中学校の指定避難所に避難しないで、自宅にとどまると主張する方が、特に高齢の男性の方を中心に一定数存在するはずである。避難所に行けば食料等も提供されるが、自宅に残っている方は、どうしても見落とされてしまう。自宅に残った方々の情報もしっかりと把握したうえで、物資の供給等を行っていただきたいと思う。高齢者の一人暮らしについては、単独で避難できない方もいらっしゃるので、十分な注意喚起をお願いしたい。

また、各地域で、災害時に当面の避難生活を行なう避難所として、指定避難所が設定されている。指定避難所となっている学校の近隣に居住されている方々については、平常時の防災訓練等で、学校との連携を密にしていきたいと思う。そうすることで災害時にも連携がスムーズに行なえるはずだ。

(3) まとめとして

公助が機能するまでの 72 時間、自助と共助で乗り切る必要がある。3 日間は役所の援助を頼らずにしのげるよう、必要な備蓄や準備に取り組んでいただき、まずは自分の命を、そして家族の命を優先に考え、行動していただきたい。

経験は決して自分を裏切らず、役に立ってくれるものである。防災訓練、避難訓練等、役に立たないと思わずに、いざとなったらこれは必ず役に立つと考えて参加してほしい。避けられない災害と共生することを意識して、備えは怠らずに生活していただきたいと思う。



開催地より

東日本大震災時の実体験に基づくお話しを、非常にわかりやすくご説明いただいた。参加者は災害について具体的なイメージを認識できたと思う。当市としては、自助・共助の意識を向上させるような防災活動を推進していくとともに、地域のつながりを重視した防災計画の策定に取り組みたい。